

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	17-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol intake and mortality among survivors of colorectal cancer: The Cancer Prevention Study II Nutrition Cohort. 大腸がんの生存者におけるアルコール摂取と死亡率：がん予防研究Ⅱ栄養コホート		
<b>執筆者</b>		
Yang B, Gapstur SM, Newton CC, Jacobs EJ, Campbell PT.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer. 2017 Jun 1;123(11):2006-2013. doi: 10.1002/cncr.30556. Epub 2017 Jan 30.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒量、全死亡率、死因別死亡率、コホート研究、大腸がん、生存解析		28135394
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 飲酒量は大腸がんの危険因子であるが、大腸がん診断後に飲酒が生存に及ぼす影響は明らかにされていない。本研究では、大腸がん診断前後における飲酒量と生存（死亡率）との関連を調査した。</p> <p><b>方法：</b> 対象者は、がん予防研究Ⅱ(CPS-Ⅱ)栄養コホートに登録された米国人男女において 1992年から 2011 年までの追跡調査の間に浸潤性・非転移性大腸がんと診断された 2,458 名。飲酒量はベースライン時点と 1997、1999、2003、2007 年にいずれも自己申告による情報を用いた。1,599 名の参加者で診断後の飲酒量データが利用可能であった。</p> <p><b>結果：</b> 大腸がん診断された 2,458 名の参加者のうち、1,156 名が 2012 年までの追跡調査中（平均 8.3 年）に死亡した。診断前の摂取量が 1 日 2 ドリンク（1 ドリンクあたりアルコール換算 12～13g）未満の者は非飲酒者と比べ、全死亡リスクがわずかに低かったこと（相対危険度[RR]0.86; 95%信頼区間[95%CI] 0.74-1.00）を除いて、診断前後の飲酒量は全死亡と明らかな関連が見出せなかった。診断後の飲酒は大腸がん特異的死亡リスクの上昇が示唆されたが、アルコール摂取は一般的に大腸がん特異的死亡リスクと関連していなかった（非飲酒者と比べ、1 日 2 ドリンク未満の飲酒者は RR 1.27 [95% CI, 0.87-1.86]、2 杯以上の飲酒者は RR, 1.44 [95% CI, 0.80-2.60]であった）。</p> <p><b>結論：</b> 本研究の結果からは、非転移性大腸がん患者における飲酒量と全死亡との関連を認めなかった。診断後の飲酒と大腸がん特異的死亡リスクとの関連は、より大規模な研究によって、さらに検証されるべきである。</p>		